



DMI 国際ろう者支援会 日本

2013 年 夏号

DMI の友人と支援者のみなさまへ

今年も早いもので、半分が過ぎてしまった…と多くの人が感じているのではないのでしょうか。暑い夏も始まりました。そんな中、DMI への変わらぬご支援を感謝します。

スポンサーシップのコーディネーター、ジェニー・リードより DMI の各学校の最新情報が届きました。神様が DMI の学校教育の働きを祝福しておられる様子を読んで、きっとみなさまも喜んでくださることでしょう。学校や生徒たちを定期的に支援してくださるスポンサーの方々に心からお礼を申し上げます。

第 6 回 DMI 国際会議は 2014 年 10 月 14 日から 18 日までソウルで開催されます。日本から遠くないソウルで開かれる今回の会議には、ぜひ日本からろう者健聴者を問わず、多くの方が訪れてくださることを願っています。どうぞ今から予定に入れておいてください。

DMI の国際総主事ネヴィル・ムーアが、ウガンダのロバート・ムカサ兄について書いています。どうぞ、お読みください。大きな励ましを受けられることと思います。

「DMI のスタッフや関係者を紹介する機会を時々、持ちたいと思います。今回、紹介するのはウガンダのロバート・ムカサ・セワグデーです。



随分前のことですが、ウガンダのカンパラにある DMI の事務所に滞在していたとき、いつも笑顔の利発な少年によく会いました。彼は常に何かをしていないと気がすまないようでした。まだ少年でしたが、目的意識が強く積極的

で、会っていて楽しい子どもでした。あまりにエネルギッシュなので、いっしょにいと疲れてしまうこともありましたが、彼はいつも前向きで良い意味で刺激的だったのです。彼の家はカンパラから 50 キロほどのワキソ地区にあり、家族には 8 人の子どもがいました。

ロバートは、おそらくマリアが原因で、7 歳のときに聴力を失いました。しかし、彼は物乞いをしたり、身の上話をして人の憐れみを買ったりはしませんでした。自ら描いた絵を売って自力で学費を稼ぎ、学校に行っていました。私は彼から何枚の絵を買ったかわかりません。

ロバートはウガンダ東部の高校、カンパラのカレッジ、そして大学の受験資格を得る試験に合格して、カンパラのカヴェンディッシュ大学で社会福祉と NGO マネージメントの学士コースで学んでいます。1997 年にクリスチャンになり、故デイビッド・ブームが洗礼を受けました。

彼はウガンダの DMI の教会のユースリーダーです。情熱的でユーモアにあふれ、明るく賢い若者ですが、謙虚な人でもあります。発展途上国に生まれたろう者として多くの困難があるにも関わらず、今までにすばらしい成果を収めてきました。若いにも関わらず経験も豊富です。彼は本当にたくさんの人たちを祝福してきました。

ロバートのビジョンは、障害のある若者が各々の能力を開花させて、人を指導したり、生活技能を教えたり、職業カウンセリングをしたり、信仰を導

いたりできるように、人づくりをすることです。彼は障害者団体の理事もしていて団体運営の経験も積んでいます。海外の会議等にも DMI を代表して出席し、セミナーやワークショップ、キャンプなどの講師もしています。ケニア、エジプト、リトアニア、オーストラリア、香港、ルアンダでろう者の団体を設立しました。ノルウエーの国際会議では、アフリカ諸国の 14 人の代表のひとりとして、発展途上国でユースプロジェクトを立ち上げるノウハウを学びました。彼は世界ユースろう連盟の副総裁（任期 2011～2015）に南アフリカのダーバンで選ばれました。



先日、彼から E メールが来てびっくりするニュースを告げられました。私たちは何も言わなかったのに、2014 年 10 月にソウルで開催される第 6 回 DMI 国際会議に出席しようと、エジプト航空と交渉して 5 人分の航空券を寄付してもらったというのです。何とロバートらしい行動力でしょう。神様は、彼のような先見性ある若者と与えてくださったのですから、DMI の将来はきっとすばらしいことでしょう。」

みなさん、どうか心を強くして神様の祝福に感謝してください。

日本 DMI 理事会を代表して

Alayne Madore

理事長 アレイン・マドレ

お知らせ：

DMI 日本の郵便振替口座の名称は「DMI-Fukuzawa」から「DMI」に変更されました。尚、口座番号に変更はありません。

DMI JAPAN Summer 2013

- English -

Dear friends and supporters of DMI,

Are we really in the second half of 2013? Where does the time go? So many of us feel this way. The hot weather has come on us suddenly, and we know summer has come. Thank you for your continued support of DMI.

We have just received another school update from Jenny Reid, the sponsorship coordinator, and I am sure you will rejoice as you read of how God is blessing the school ministry of DMI. Thank you again to those who regularly sponsor either a child or a school, making this all possible.

Plans are now underway for the 6th DMI International Conference which will be held in Seoul, October 14-18, 2014. Seoul is very close to Japan, so we are hoping that many Japanese, both hearing and deaf, will be able to attend. Please mark these dates on your calendar.

I was really encouraged to read about the following young man from DMI Executive Director, Neville Muir.

Now and then we would like to provide you with a profile of some of our DMI people. This time we feature Robert Mukasa Ssewagudde. Many years ago whenever I was in the office, or around the property of DMI Uganda in Kampala, I would keep coming in contact with a young deaf guy who was always bright and smiling. He seemed to have something on the go all the time. Even at the young age he was at that time, he was one of those 'go getter' kind of kids who always left you with a good feeling after meeting him. His energy kind of wore you out at times though, but he was always positive and inspiring.

Robert needed money for his schooling; he came from a rural family from the Wakiso district about 50 kilometres from

Kampala. One of six brothers and two sisters he became deaf, possibly from Malaria, at the age of seven. Robert never begged, told sob stories or complained about his lot in life. Instead, he supported his schooling by painting pictures and selling them. I don't know how many pictures I bought that I didn't need nor could find anywhere to display!

Robert attended High School in Ngora, Eastern Uganda, where he passed his O levels. He then attended Makerere Highway College in Kampala for his A levels and is currently studying for a Bachelor of Social Work and NGO Management at Cavendish University, also in Kampala. He became a Christian in 1997 and was baptised by the late David Bulime. Robert is funny, enthusiastic, exuberant, intelligent yet very humble. He is the Youth Leader of DMI churches in Uganda.

For such a young guy who is deaf, who comes from a third world country and had a disadvantaged background, Robert has achieved so much and has already had so many experiences; he has blessed so many people in many corners of the world. His vision is to develop the capacity of youth with disabilities in leadership and life skills, using spiritual and socio-economic counselling skills. He holds Board leadership positions on a number of Deaf Youth and Disability organisations and is experienced with board work and organisation.

Robert has travelled extensively and has represented DMI in a variety of conferences and training sessions with DMI Deaf youth and other organisations. He has



Deaf Ministries International

DMI 日本部

Web: <http://japan.deafmin.org>

Email: info@japan.deafmin.org

郵便と電話は、大阪インターナショナルチャーチ:

〒540-0004 中央区玉造 2-26-47-407

Tel/Fax: 06-6768-4385

DMI 国際本部 (オーストラリア)

Web: <http://deafmin.org>

Email: muir@deafmin.org

P.O. Box 395 Beaconsfield Vic. 3807
Australia

Tel: +61-3-5940-5430

Fax: +61-3-5940-5432

led workshops and seminars, training sessions and camps and has formed organisations for the Deaf in Kenya, Egypt, Lithuania, Australia, Hong Kong and Rwanda. In Norway he was one of 14 participants from Africa learning how to start up youth projects for developing countries. He was elected Vice President of the World Federation of the Deaf Youth Section in Durban, South Africa for the 2011-2015 term.

The other day I received an e-mail and this photo, which kind of blew me away! Without any instigation on our part, Robert approached EGYPTAIR and asked for the donation of 5 airline tickets to enable some African DMI leaders to attend our next International Conference in Seoul, Korea in October 2014. He has been promised these tickets. That's our Robert! With this kind of proactive young people DMI is in good hands for the future.

So be encouraged, everyone, and give thanks to the Lord for His blessings.

Warmest greetings,

Alayne Madore

Chairperson, Japan DMI Board



Note: The name on DMI Japan's postal transfer account is now just "DMI" instead of "DMI-Fukuzawa". (The number has not changed.)



支援者のみなさまへ

生徒や教師および関係者のためにご支援くださっているみなさまに心から感謝いたします。子どもたちが教育を受けられることをありがたく思っています。

しかし、状況は常に厳しいものです。基本的な必要さえ完全に満たされることはありません。熱帯地方に特有の問題は屋根がたびたび壊れることです。机や椅子が十分ないので別の階の教室に行くときは、それも移動しなくてはなりません。お湯のシャワーはなく、ノートも十分ないので生徒たちの教科書は書き込みでいっぱいです。大きな学校では一年間に100個以上の電球が必要です。自給のための方策を講じていますが、それさえも初期資金が必要です。

フィリピン、ダバオの DMI スクール

ダバオの DMI スクールには幼稚園から大学までの100人の児童、生徒、学生がいます。米国の学期を採用していますので、新学期が始まりました。この学校のレベルは高く、大学を卒業後はろう学校の教師や牧師になる学生もいます。ろう者の教育について学ぶ他大学の実習生を受け入れることもあります。地域のイベントなどで成果を披露することもあり、高い評価を得ています。ダバオのボーイスカウトやガールスカウトに所属する生徒もいます。十数名の生徒は孤児なので休暇中に戻る家がありません。お互いが家族です。

3月には6人の学生が大学、8人が高校、3人が幼稚園を卒業しました。懸命に学び、よい成績を収めました。学生たちと学校を支援してくださった方々に感謝します。まだ完成していない施設があります。食堂は雨漏りし、コンクリート床の下にあった水道管が地震のために壊れたので、水道設備を入れ替える必要はありません。施設のための指定献金をお願いできないでしょうか。ミンダナオ島のカガヤン・デ・オロのゴム農園と養豚の事業は順調でろう者に就業の場を提供しています。主に感謝します。



フィリピン、リガオの DMI スクール

リガオでは10人の中高生、4人の小学生、4人の幼稚園児が卒業しました。みんなよくがんばりました。3月に終業式が行われ、生徒たちは休暇で帰郷します。6月からは新たな学年が始まります。リガオでも生徒たちは地域の祝祭イベントに参加します。3人の生徒は特別学校間のタレント競技会に参加しました。多くの卒業生は DMI が地域に設立したろう者の教会に集っています。

小規模ビジネスの試みは順調です。学校の卒業生には職業訓練と少額のローンを提供し、社会人として自立できるよう支援します。これは DMI が目指していることのひとつです。小規模ビジネスの一例は、道端に露店を出して自分で育てた作物や、料理した食べ物を売る、家でネイルサロンをする、プリペイド携帯のカードを売るなどです。



フィリピン、ビサヤ島のバコロドの DMI スクール

ここでは12人の小中高等学校の児童生徒が学んでいます。彼らの生い立ちは非常に感動的です。ほとんどの子どもたちは、就学年齢をかなり過ぎてから学び始めました。親がいなかったり、ろう者も教育を受けられることを知らなかったり、子どもを就学させる経済的余裕がなかったり、以前は、子守をしたり、祖父母の世話をしたり、家事や農業を手伝ったりしていました。教育を受けることで、彼らの人生は大きく変わることができたので、スポンサーシップに心から感謝しています。2組のろう者の家族はウズラの養殖などを行っています。ザンボアングタの農場は順調です。2人の聾者が養豚と野菜農園で働いて自立しています。カナダ人のダグとヴァルの支援を得て、新たに土地を購入し、養豚場を拡大し、マンゴ園を作る計画が立てられています。



エジプト

エジプトではろう者の就労は難しいので大変です。DMI は4都市でろう者の教会を支援しています。この方々の安全が目下の気がかりです。クリスマス会や母の日祝会が開かれ賞品もあったことは、彼らにとって明るい出来事でした。4つの教会では主日礼拝の後、食事がふるまわれました。子どもたちの学校では、今月は卒業試験です。木工工場プロジェクトをスタートさせたいと願っていますが、作業場の家賃と材料費をまかなうための支援が必要です。指定献金をご検討くださると感謝です。

ルワンダとザンビア

ザンビアの寄宿舎にいるハスティンズとマリザは元気です。ルワンダのアルフォンシーネはすばらしい学業成績を修

めました。彼女がルワンダのろう者のリーダーになってくれることを願っています。ただ、彼らの学費は高額ですので、ぜひともご支援をお願いいたします。

ミャンマー、カレイのミューアろう学校



学校の名前が変わりました。「ミューア」はビルマ語で「幸せな場所」という意味なので、そうしたいと強く要望されたのです。ネヴィルとリル（ミューア夫妻）は、学校が生徒たちの「幸せな場所」であることを願っていますから、自分たちの名字が使われることをしつこく承知しました。ある児童はアシャー症候群だと診断されたため、目が見える間にできるだけ教育を提供しようと最善を尽くしています。生徒の中には彼のように、耳が聞えないだけでなく別の問題を抱えている者もいます。

浴室が完成し、自動ポンプが取り付けられました。もう旧式の手動式ポンプで水をくみ上げなくてもよいのです。新しい建物はすばらしい資産です。二階の大きな部屋はろう者の教会の礼拝に使われたり、雨季の間は学校の卓球場になったりします。生徒はまだ中学高校レベルなので、職業訓練はまだ始まっていません。ここで育った子どもたちが、将来、ろう者のリーダーになっていくことを願っています。4月には再度「キャンプ」が開かれ、ピントー村の人たちは、歌などの才能を磨いています。この村に DMI が来て 5 年になりますが、その間で彼らの生活は大きく変えられ前進しました。

インマヌエルろう者クリスチャンスクール（ケニア）

生徒たちは全員、進級試験に合格しました。これはすばらしい成果です。3人の生徒は国立高校の入学試験に合格しました。女子のひとりがクジャ高校、男子のひとりは高等専門学校で木工、機械、溶接などの技術を学びます。このような教育は、将来、就職して自立し、家族を支援していくために大切です。

難聴の生徒には他の団体によって補聴器が提供されました。また、難聴のボランティア教師も働いています。彼女は生徒や教員たちを大きく励ましてくれます。生徒たちは健聴者の学校といっしょに音楽祭に出場しました。男子は民族ダンス、女子はスコットランドダンスを披露しました。24人の生徒は全国音楽大会の出場権を手に入れました。しかし、学校には彼らを大会に出場させるための十分な旅費がありません。この状況はスポーツでも同じです。一生懸命練習して地区大会を勝ち抜いても全国大会には行けないのです。

二頭の牛を購入して畑を耕しています。とうもろこし、大豆、さつまいもなどが育っています。二頭目の乳牛も購入しました。7月には十分な牛乳が生産できることを願っています。卵を産むニワトリもいます。学校の農場で採れた良い食物を生徒たちに食べさせることができます。経費の面でも節約になっています。

ベットも追加できました。これで生徒たちは一人ずつ自分のベットで眠ることができます。寄宿舎の建設で余ったブロックで職員室を建てています。ここまで来るのに5年以上かかりました。大変でしたが、とても幸せな学校になりました。



ウガンダ

ハキンとアブソロム（写真）は、長い間支援を受けてきた年長の生徒です。ふたりは訓練を終え、面接試験を受けて、ろう者の教師として働き出しました。ふたりとも、ここまでよく頑張りました。ルツとサイモンも教師に採用されました。

スポンサーシップは彼らの夢を実現させてくれました。教育を受けるチャンスが与えられるなら、ろうの子どもたちもこのようになれるのです。他に3人の生徒が木工、家政、縫製を高等専門学校で学んでいます。マライカ美容学校で学んでいる生徒もいます。彼女は学校でただひとりのろう者です。3人の男子はカヤンボゴ大学に進みました。ジョセフはミケランジェロ美術学校で優秀な成績を修めています。すでに2度の個展を開きました。海外からの観光客が彼の作品を評価してくれています。

ワキノ中学高等学校には 文部省より 40 台のパソコンと運動具が供与され、生徒たちは興奮しています。ワキノは地域のスポーツ振興のために設立された学校です。地域の6つの小中学校を対象にスポーツ大会を催しました。私たちのところからは、6人の生徒がこの学校に通っています。今期の二人の卒業生は教育大学の入学を待っているところです。



ミッターナの聖マリア学校とマサカの聖マルコVII世学校の生徒たちも元気に良い成績を残しています。スポンサーのみなさまに心から感謝しています。

スポンサーシップと一般寄付に感謝いたします。

私たちの学校は節約しながら寄付や支援金を感謝して大切に使っています。

ジェニー・リード

DMI 本部 国際スポンサーシップ コーディネーター



Dear Sponsors and Supporters

I would like to pass on sincere thanks to all our Sponsors and Supporters from the students, teachers and parents at our schools. They are very grateful for the opportunity that you give the children to gain an education.

But I have recently learned of some of the hardships our schools face every day, and we rarely have enough funds to send them the finances for their basic needs each month. Damage to roofs is an ongoing problem in stormy tropical countries. Tables and chairs have to be carried up and down stairs because they don't have enough. Hot water in bathrooms is unknown and students learn to fill every corner of their books. Over 100 light globes are needed in our largest school each year.

We are attempting to establish self sustainable projects but these often need additional finance to get them started.

DEAF MINISTRIES INSTITUTE at DAVAO in the PHILIPPINES

100 students from Kinder to College have just started their new school year at Davao. The schools in Asia use the USA school year. This school sets a very high standard and some students complete college and become pastors and teachers of the deaf themselves. This school is often visited by trainee teachers from other colleges to learn about education of the deaf. Students from the school give performances during Rehabilitation Month and many other local festivals, and are highly regarded in the community. There are many special celebrations at Davao and some students attend Girls and Boys Brigade at the weekend. About a dozen students at Davao are orphans and have no family to go to at holiday time, so they are 'family' to each other.

At Graduation in March, 6 students graduated from College, 8 graduated from High School and 3 from Kinder. They have worked very hard and are to be commended on their good results. Thank you to all our sponsors and supporters for your continued support of this school. Davao still has unfinished buildings, including the dining room that is open to the rain; and water pipes in the concrete flooring have been ruptured by earthquakes and a complete new water system is needed. Specific donations for these building works would be greatly appreciated. We are very thankful that the Piggery and Rubber Plantation at Cagayan de Oro on Mindanao Island are doing well and continue to employ deaf people.



LIGAO in the PHILIPPINES

Ligao also celebrated their Graduation in March with 10 Secondary, 4 Primary and 4 Kinder graduates. Our deaf students work very hard to reach these standards. 'Commencement Exercises' were held in March before the school year ended so that students are eager and ready to start learning in June, before they go home for the holidays! Ligao is also very active in local celebrations and 3 students competed at the Regional Festival of Talents for Special Schools. Many ex students now attend the churches for the deaf that have been started in the area through Deaf Ministries International.

The new **Micro Enterprise Program** at Ligao is a big success already. Deaf students who have completed their education are given special Vocational Training and small loans so they can start small businesses and support themselves as adults. This is one of our aims for all our students. Their small businesses include road side stalls, selling of food they have cooked from food carts or baskets, and home calls to sell produce they have grown, manicure and pedicure at home, and on selling of mobile phone credit and kerosene.

BACOLOD in the VISAYA ISLANDS in the PHILIPPINES

There are about 12 students attending primary or secondary school in Bacolod. The younger ones attend the Bacolod City SPED (Special Education) Centre and the older ones are studying at Bacolod National High School. The personal stories of these students are very touching. Most have started school quite late because their parents did not know there were deaf schools, or could not afford to pay for education. They just stayed home and looked after their younger siblings or even their own elderly grandparents. Some are orphans and some were expected to do the house or farm work. Education is making a huge difference to their lives and they are very grateful for sponsorship. Two deaf families are now supporting themselves in Bacolod with a pedicab business and a quail egg mini farm. The farm at Zamboanguita is going well and 2 deaf workers are supported by the piggery and the vegetable garden. Plans are being made to purchase land with a mango orchard and room for more piggeries, with support from Doug and Val from Canada.



EGYPT

Employment for the deaf is difficult to find and life is not easy for deaf people in Egypt, but we support deaf communities in four cities in Egypt, and the welfare of our deaf friends there is the first consideration. Christmas and Mother's Day parties with prizes for the deaf brought joy to their lives. Dinner is provided on Sunday after deaf church at four centres. The deaf children have their exams and will graduate this month. The Carpentry project would like to start again but funding is needed to rent a workshop and buy materials. Specific donations for this would be greatly appreciated.

RWANDA and ZAMBIA

Hastings and Maliza are doing well in residential schools for the deaf in Zambia, and Alphonsine at High School in Rwanda is achieving very good results in her studies. We hope she will lead the deaf in Rwanda. But their school fees are expensive and we are very grateful to the sponsors of these students.



MUIR SCHOOL for the DEAF at KALAY in MYANMAR

Please note that this school's name has been changed. The school asked for this because 'muir' means 'happy place' in Burmese. Neville and Lill Muir, our Founding Directors have reluctantly agreed, because the school is a very happy place for the deaf children. One boy at Kalay has been diagnosed with Usher's Syndrome and the school is looking to cater for his learning so he can continue while he has some sight. Several students in our schools have this extra problem.

The bathroom is now completed and has an automatic pump so the children don't have to pump water up from the well with the old fashioned hand pump. The new building is a wonderful asset to the school and the large room upstairs is also used for church meetings of the deaf community as well as school sport (table tennis especially) during the wet season when the school grounds turn to mud. Vocational Training has not commenced here yet because the students are continuing academic studies at secondary school level. We hope they will be leaders of the deaf community in the future. Another 'camp' was held upstairs in April this year and the deaf people from Pintaw Oo village are becoming more skilful at signing and communicating. Their lives have been changed greatly over the 5 years since we started work in their village.

IMMANUEL CHRISTIAN SCHOOL for the DEAF in KENYA

All students passed the end of year exams and were promoted to the next grade. This is an excellent result again. Three students passed the government secondary entrance exam and one girl will go to Kuja High School. One of the boys will go to the Polytechnic School next door to ICSD and learn Vocational skills of woodworking, mechanics or welding. This is a new aspect of education that is needed so that students can learn Vocational Skills that will help them gain employment or learn to support themselves from home.

Some of the students with enough residual hearing have been fitted with hearing aids by another organisation and a hard of hearing Volunteer Teacher is working at the school. She is a big inspiration to the kids and the teachers as a whole, and they are very thankful for her work as a volunteer. The school competed in the regular schools Music Festival with the boys presenting a Cultural Dance and the girls a Scottish Dance. 24 students qualified to compete in the National Music Festival but the cost was too much for the school to afford. This was also the case with Interschool Sports even though the students had practised very hard at school and won sporting competitions and represented the Province in the past.



Two big bulls were purchased for the farm so the fields can be thoroughly ploughed. Corn, beans and sweet potatoes are some of the crops now growing. A second dairy cow was purchased and the school hopes to have plenty of fresh milk by July. The chickens supply eggs and altogether the students have excellent fresh food grown on our farm, which is also a saving for the school.

Extra beds have been purchased and the students are very glad to have a bed each now rather than share. The bricks left over from the dormitory have been used to start building the teachers' staffroom. This school and farm has progressed a long way over the 5 years since it was established, and what a happy school it is!

UGANDA



Hakim and Absolom (congratulating a prefect below) are two of our older students who have been sponsored for many years. They have completed training, recently passed the vigorous interviews and are now working as teachers of the deaf themselves. What a wonderful achievement! Ruth and Simon have also gained teaching positions. Sponsorship has enabled them to live their dream! This is an example of what deaf people can achieve if they are given the chance of education. Three students are studying courses in Carpentry, Home Economics and Tailoring at Tertiary Training Centres, and another is the only deaf student training at the Malaika School of Hair and Beauty. Three young deaf men are studying at Kyambogo University. Joseph continues to excel in his studies at Michelangelo School of Creative Arts and has had 2 exhibitions already. He has proved to be very creative and visitors to Uganda love his work.

Wakiso Secondary School was recently allocated 40 computers and sports equipment by the Ministry of Education and Sports. The students are thrilled with these resources and Wakiso has been established as a school to promote sport in the area. They held a Sports Gala that attracted 6 Primary and Secondary schools in the area. We now have 6 students attending Wakiso and 2 recent graduates are waiting for the next intake for Primary Teachers College.

The younger students at St Marys school at Mityana and at St Mark VII school at Masaka are also doing well in their studies. We are grateful to all sponsors and supporters of these dear children.

THANK YOU VERY MUCH FOR YOUR SPONSORSHIP AND SUPPORT.

Please be assured that our schools use your donations very economically and are very thankful for your support.